

へいけ 平家物語

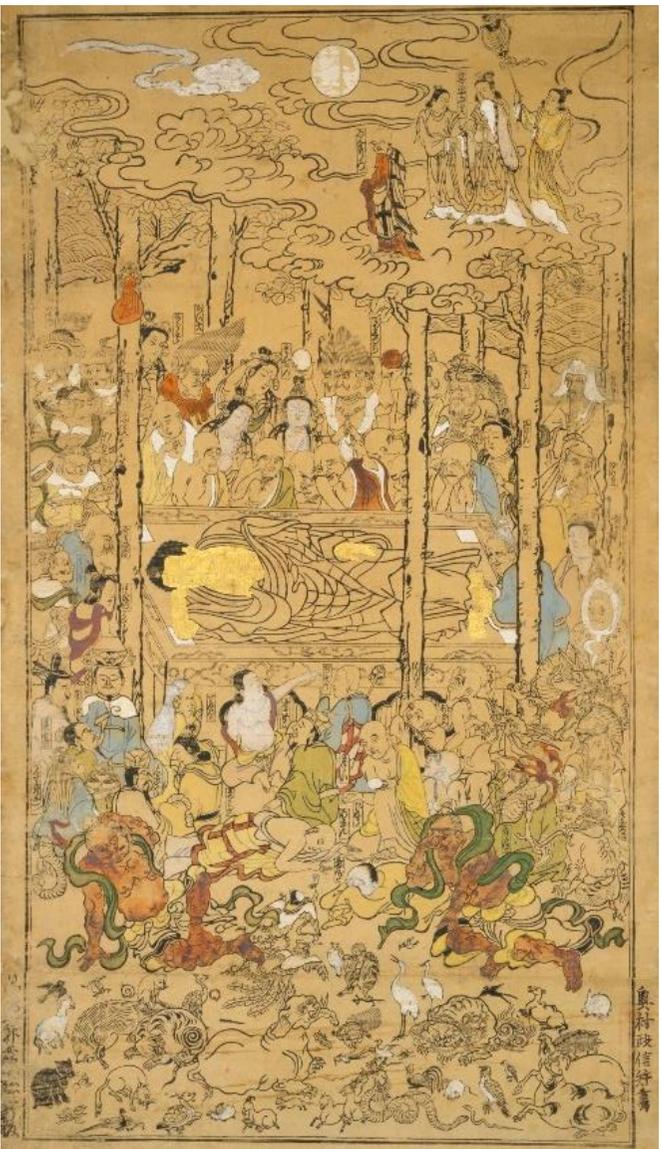
平安時代	
1000頃	『枕草子』 <small>まくらのそうし</small>
1008頃	『源氏物語』
12c	『今昔物語集』 <small>こんじゃく</small>
1185	平家滅亡 <small>めつぼう</small>
鎌倉～室町時代 <small>かまくら むろまち</small>	
1205	『新古今和歌集』 <small>こきん</small>
1212	『方丈記』 <small>ほうじょうき</small>
1235頃	『小倉百人一首』 <small>おぐら</small>
13c頃	『平家物語』
1331頃	『徒然草』 <small>つれづれぐさ</small>
1338	室町幕府開く
1600	関ヶ原の戦い <small>せきがはら</small>
江戸時代 <small>えど</small>	
1603	江戸幕府開く
1685	生類憐れみの令 <small>しょうるいあわれ</small>
1694頃	『おくのほそ道』

平家物語 鎌倉時代(一一八五頃～一三三三)の軍記物語。作者は未詳。

『徒然草』によれば、信濃前司行長が琵琶法師の生仏に語らせたのが起りであるという。激しい合戦を軸に平家の優美な生活も描かれ、場面ごとにさまざまな人間像や思いを読むことができる。

平家物語 参考資料

積迦が沙羅双樹の下で没する情景を描いた図を「涅槃図」といいます。一般に、積迦が頭を北、顔を西、右脇を下にして臥し、周囲に諸菩薩や仏弟子や動物たちが集まって悲嘆にくれるさまを描いたものです。「涅槃絵」ともいいます。



(奥村政信画／江戸時代中期の作品／国立国会図書館デジタルコレクション)